

情報メデイア学会 2020-07-04 on web

新型コロナウイルスのホモログマップ作成法 の紹介

天野晃

背景

2019年末から2020年初頭にかけて新型コロナウイルス感染が急速に拡大し、日本では感染の検査の一つとしていわゆるPCR検査を用いることとなった。2020年1月には新型コロナウイルスの塩基配列が発表されており、プライマー設計も容易になったと想像するが、急激に検査が増えたことから必ずしも専門家による検査・判定が行われているとは限らない状況にあると想像する。

検査である以上、一定のFalse-positive、False-negativeが存在するが、False-positiveとなる要因のひとつであるコンタミネーションについては、PCRプライマー設計による回避が可能な場合があると考ええる。

このための参考情報として、新型コロナウイルスゲノムと他ウイルス（生物）のゲノムの相同性を視覚的なマップとしてまとめることを思いついた。

目的:

コロナウイルスゲノムの簡易的な比較・可視化法の紹介

- コロナウイルスホモログマップ作成法の紹介
- コロナウイルスホモログマップ解説
- 詳しくはポスターで

方法:

- NCBI blast
- FFTツール
- 描画ツール
- 詳しくはポスターで

結果:

- 詳しくはポスターで